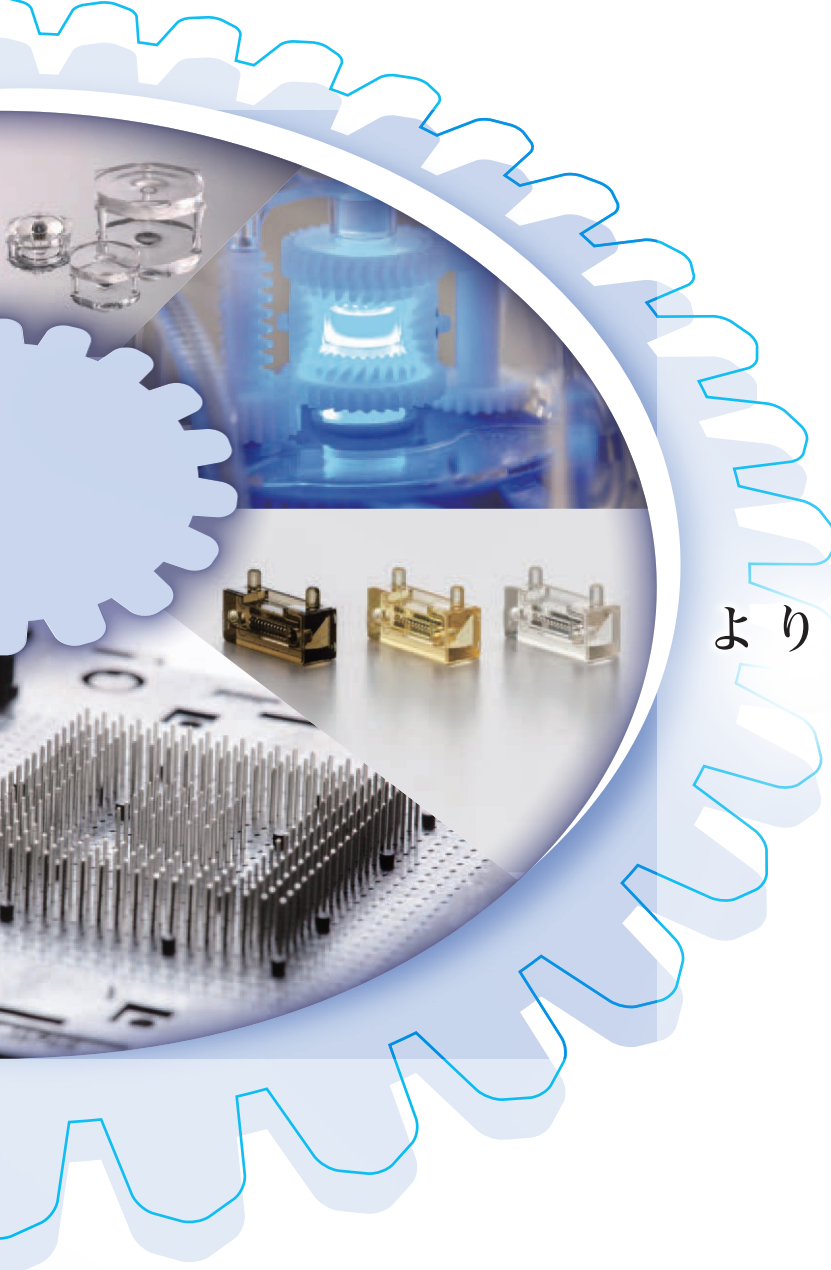


株式会社エンプラス

(証券コード:6961)



よりよき明日を目指して

平成30年3月期 (第57期) 中間報告書
平成29年4月1日から平成29年9月30日まで

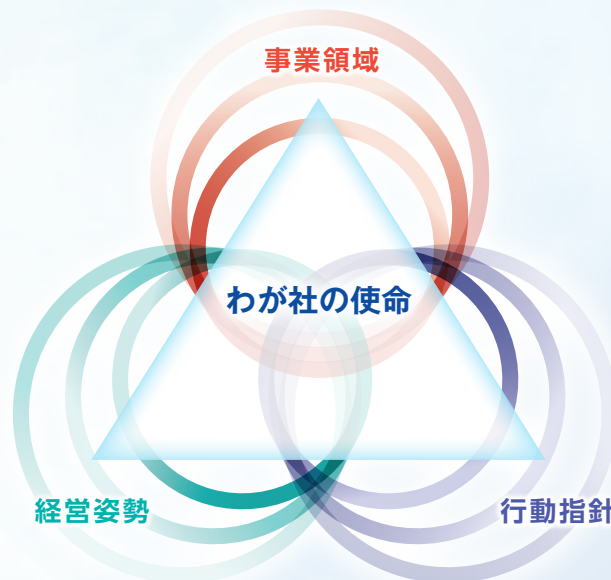
enplas



株式会社エンプラス

Contents

- 01. 企業理念
- 02. 株主の皆様へ
- 04. 連結業績の推移
- 05. 事業別概況
- 07. EnplasのPolicy
- 08. 連結財務の状況
- 09. 会社概要/株式情報/株主メモ
- 10. グローバルネットワーク 国内ネットワーク
- 巻末. グローバルネットワーク 海外ネットワーク



わが社の使命

信頼の絆をもとに、あらゆる変化に対応する強靱な経営基盤を堅持し、

1. お客さまに感謝される製品とサービスを提供します。
2. 能力と成果を公正に評価し、社員の生きがいを育みます。
3. 株主の皆さまの期待に応え、企業価値の向上を目指します。

これらの実践を通して豊かな社会の発展に貢献します。

事業領域

エンジニアリングプラスチックで培った先進技術をもとに、さらに最先端技術を追求し、創造的価値を世界市場に提供します。

経営姿勢

1. 卓越した技術と信頼される製品により、競争力と成長力を追求します。
2. 健全な財務体質により着実な発展を図ります。
3. 全ての企業活動において確かな品質に責任を持ちます。

行動指針

1. 創造的な目標を掲げ、情熱を持って挑戦します。
2. 感謝の心と学ぶ姿勢を大切にします。
3. 公私を明確にし、公明正大に行動します。



株主の皆様へ

当社は、創業以来培ってきたエンジニアリングプラスチック総合技術のさらなる先進化と活用により、常に高精度、高機能、高品質を追求し、お客様に感謝されるより良い製品とサービスの提供を通して社会の発展に貢献してまいります。

代表取締役社長

横田大輔

Q 上期の事業環境と経営実績についてお話しください。

上期における世界経済は、米国においては大型ハリケーンの来襲により鉱工業生産が弱含んだものの長期的な景気への影響は限定的と見られ、雇用環境は低い失業率の中で、良好に推移しました。中国ではインフラ投資の伸びが鈍化するも、その水準は依然として高く、企業の景況感には底堅さが見られます。新興国・地域においては継続的な資金流入により各国で株高、通貨高となり、輸出についても総じて好調に推移しました。

わが国経済は、堅調な設備投資や個人消費に支えられ、いざなぎ景気に次ぐ長期の景気回復局面を迎えており、ビザ発給要件の緩和等によりインバウンド需要にも回復が見られました。一方で米国における政権運営の動向や不安定な北朝鮮情勢、国内における深刻な人手不足の継続など、景気の先行きは予断を許さない状況が続いております。

このような状況の中、エンプラ事業では、自動車用部品は、米国で新車販売台数が伸び悩んだものの国内顧客からの受注は底堅く、新規顧客の開拓も販売増に貢献しました。プリンター用部品は、国内の主要顧客向けの販売が引き続き堅調に推移し、また、海外市場で高付加価値製品の受注が拡大したことにより利益率が改善しました。

半導体機器事業では、各種ICテスト用ソケット、バーンインソケットは、国内外において引き続き車載用途の受注が好調だったことに加え、台湾市場向けの販売も伸長しました。

オプト事業では、光通信関連の光学デバイスは、市場の競争激化により一部製品で単価下落があったものの、ハイエンド製品の販売は堅調に推移しました。LED用拡散レンズは、新製品の開発に注力し、ソリューション提案を推進しましたが、主要顧客における生産調整の影響を強く受け、受注は低調に推移しました。

Q 下期の取り組みについて お話しください。

当社グループでは、さらなる成長を目指すため、以下を
今期の経営基本方針としております。

- ① Operational Excellence / 経営基盤・事業基盤の強化
- ② Specification Technology / スペックビジネスの推進
- ③ Multiple Growth / 多様な成長戦略の実行

グローバル競争の激化を始めとする当社を取り巻く環境
の変化に迅速に対応すべく、各事業における具体的な取り
組みを進めることにより、企業価値の向上および株主価値
の最大化を目指しております。

エンブラ事業は、グローバル事業基盤の最適化、製品開
発、技術開発戦略の明確化により、収益性の向上を図り、
マーケティング機能の強化と試作受注体制の加速により、
新事業開発を推進してまいります。半導体機器事業は、事
業基盤の強化、顧客満足度の向上により、事業成長を推進
してまいります。オプト事業は、LED用拡散レンズにおい
ては、次世代製品の開発、上市により、バランス経営へのシフ
トを図り、また、光通信関連の光学デバイスにおいては、高
速化する光通信への対応、機能付加による顧客価値の向
上に努めてまいります。

Q 株主還元についてお願いします。

当社は、健全・堅実な経営により強固な財務体質を堅持
するとともに、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様

還元することを基本方針とし、また、安定的配当の考え方
も取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して、配当の決定
を行っております。

また、当社では自己資本利益率(ROE)および1株当
り当期純利益(EPS)を事業活動の成果を示す重要な経
営指標と位置づけており、その維持・向上を図るため自
己株式の取得も継続的に検討してまいります。内部留保
しております資金は、経営基本方針に則り、今後の事業
展開を踏まえ、中長期的展望に立って生産設備投資、研
究開発投資、情報化投資や新事業創出のためのM&A資
金などに積極的に振り向けるとともに、将来の収益力の
向上を通じて株主の皆様へ還元できるものと考えており
ます。なお、中間配当につきましては、1株当たり40円と
させていただきました。また、当期の期末配当金につい
ては1株当たり40円、通期で1株当たり80円を予定して
おります。

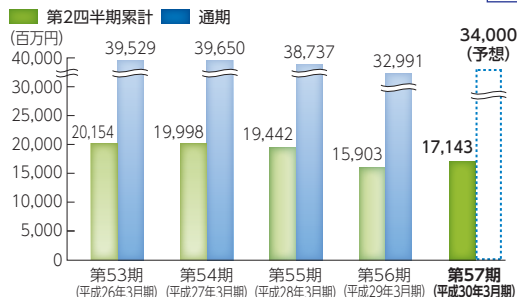
Q 株主の皆様一言お願いします。

私たちは、創業以来培ってきた高精度・微細加工技術を
もとに、当社にしか実現できない高付加価値製品の開発に
挑戦し、お客様に感謝される製品・サービスを提供するこ
とで、豊かな社会の発展に貢献してまいります。そして、日々
変化する市場のニーズに応えるべく、さらなる最先端技術
を追求し、世界に新たな創造的価値を提供するイノベー
ションカンパニーを目指してまいります。

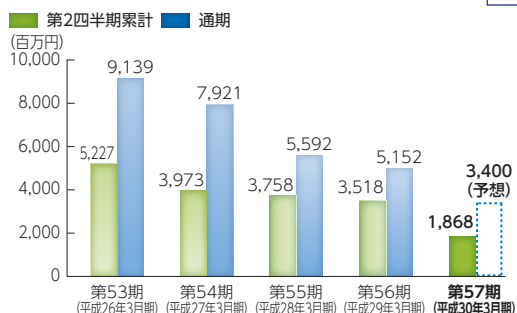
今後とも、株主の皆様にはより一層のご支援とご鞭撻を
たまわります様、よろしくごお願い申し上げます。

連結業績の推移

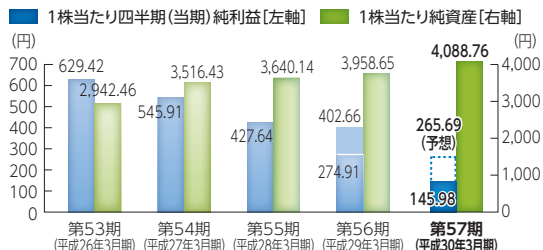
■ 連結売上高 1



■ 親会社株主に帰属する連結四半期(当期)純利益 3

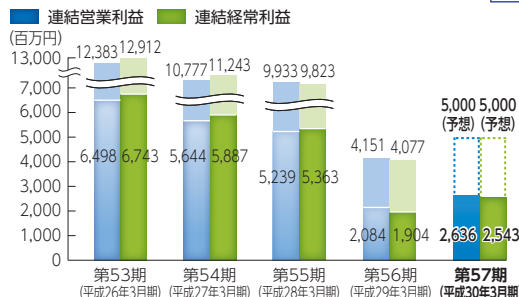


■ 1株当たり四半期(当期)純利益 / 1株当たり純資産

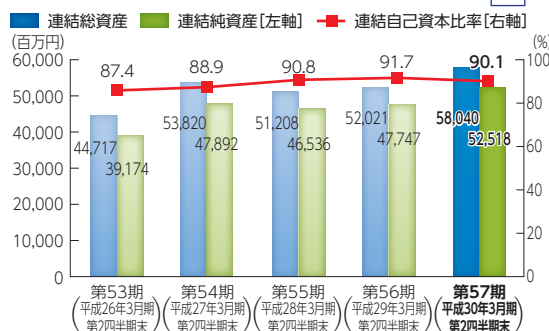


※業績予想や将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。従いまして、実際の業績は見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

■ 連結営業利益 / 連結経常利益 2



■ 連結総資産 / 連結純資産 / 連結自己資本比率 4



■ 平成30年3月期 通期予想

(単位:百万円)

| 科目 | 平成29年3月期 通期 | 平成30年3月期 第2四半期累計 | 平成30年3月期 通期(予想) |
|----------------------|----------------|---------------------|--------------------|
| 売上高 | 32,991 | 17,143 | 34,000 |
| 営業利益 | 4,151 | 2,636 | 5,000 |
| 経常利益 | 4,077 | 2,543 | 5,000 |
| 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 | 5,152 | 1,868 | 3,400 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益(円) | 402.66 | 145.98 | 265.69 |

ポイント 1

当第2四半期累計における連結売上高は17,143百万円(前年同期比7.8%増)となりました。

ポイント 2

連結営業利益は2,636百万円(前年同期比26.5%増)、連結経常利益は2,543百万円(前年同期比33.5%増)となりました。

ポイント 3

親会社株主に帰属する連結四半期純利益は1,868百万円(前年同期比46.9%減)となりました。

ポイント 4

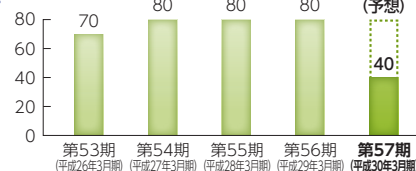
連結純資産は52,518百万円(前連結会計年度末比1,734百万円増)、自己資本比率は90.1%(前連結会計年度末比1.6ポイント減少)となりました。

株主還元について

1株当たり 配当金80円

当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また、安定的配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して、中間配当を含む年間配当は1株当たり80円を予定しております。

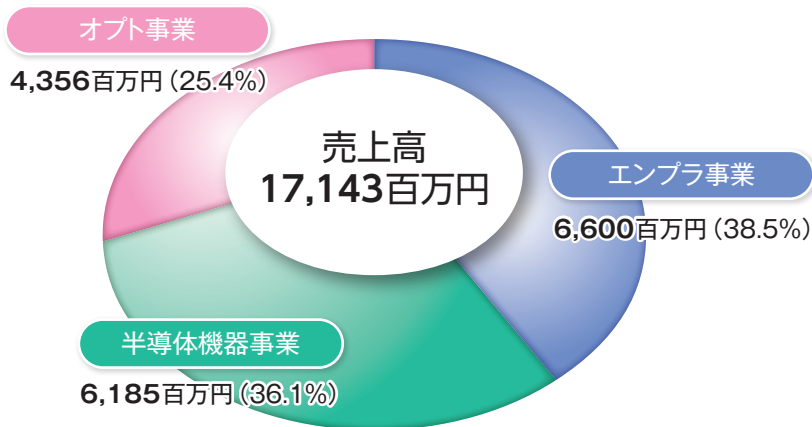
■ 配当金 (円)



事業別概況

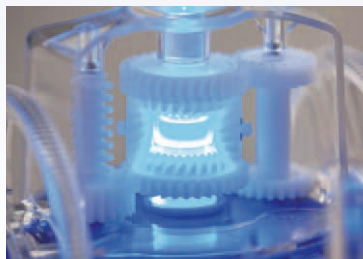
事業セグメント別売上高構成比 平成30年3月期第2四半期累計 (平成29年4月1日から平成29年9月30日)

当社は創業以来、基幹事業としてエンプラ事業の高精度化・高機能化を進め、さらに、時代の変遷とともに、メカトロニクス領域からデジタル領域へと要素技術開発を展開し、半導体機器事業・オプト事業と事業領域の拡大を図ってまいりました。今後も世界のあらゆる産業分野に活動の場を広げていきたいと考えております。

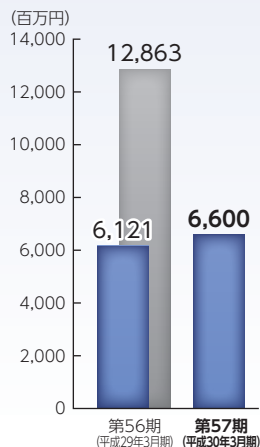


エンプラ事業

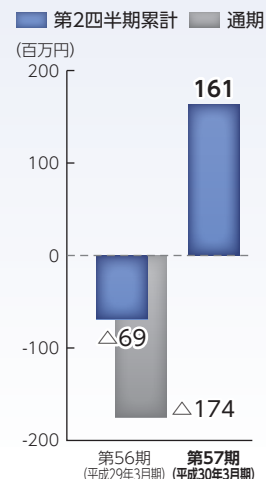
自動車用部品は、米国で新車販売台数が伸び悩んだものの国内顧客からの受注は底堅く、新規顧客の開拓も販売増に貢献しました。プリンター用部品は、国内の主要顧客向けの販売が引き続き堅調に推移し、また、海外市場で高付加価値製品の受注が拡大したことにより利益率が改善しました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は6,600百万円(前年同期比7.8%増)、セグメント営業利益は161百万円(前年同期は69百万円のセグメント営業損失)となりました。



■ 売上高

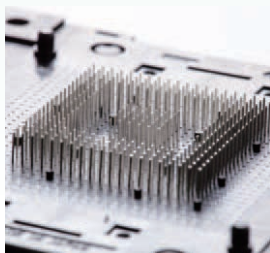


■ 営業利益(△純損失)

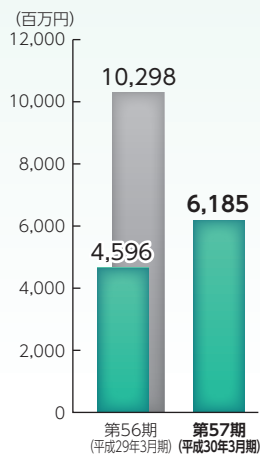


半導体機器事業

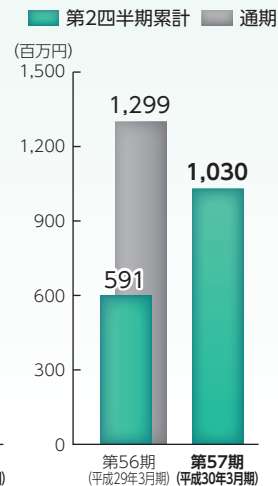
各種ICテスト用ソケット、バーンインソケットは、国内外において引き続き車載用途の受注が好調だったことに加え、台湾市場向けの販売も伸長しました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は6,185百万円（前年同期比34.6%増）、セグメント営業利益は1,030百万円（前年同期比74.3%増）となりました。



■ 売上高



■ 営業利益

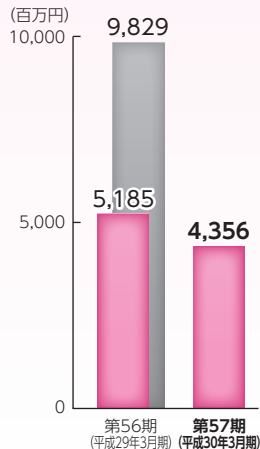


オプト事業

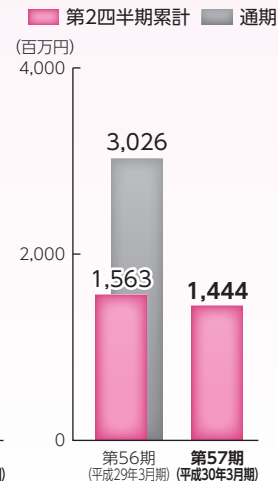
光通信関連の光学デバイスは、市場の競争激化により一部製品で単価下落があったものの、ハイエンド製品の販売は堅調に推移しました。LED用拡散レンズは、新製品の開発に注力し、ソリューション提案を推進しましたが、主要顧客における生産調整の影響を強く受け、受注は低調に推移しました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,356百万円（前年同期比16.0%減）、セグメント営業利益は1,444百万円（前年同期比7.6%減）となりました。



■ 売上高



■ 営業利益



品質方針

お客様に感謝されるより良い品質の製品とサービスを提供します。

1. エンプラスグループは世界の全ての拠点において共通の品質方針を掲げ活動しています。
2. エンプラスは世界の全ての拠点において、ISO9001を基本フレームとした共通の品質マネジメントシステムで品質保証活動を推進しています。
3. エンプラスは品質第一主義で、全ての事業活動において品質改善活動を展開し、お客様に安心して使用していただける製品を生産・供給していきます。
4. エンプラスは供給する全ての製品の品質について責任を負うべく、各々の生産拠点で対応するほか、全社を上げて対応できるよう、本社への情報集中機能と本社からの支援活動機能を準備しています。

ISO9001 認証取得
【登録組織】
株式会社エンプラス
【登録範囲】



1. 精密プラスチック
ギヤ、キャブレター
用プラスチックフ
ロート、プラスチック光学素子及び
その他エンジニアリングプラスチック精密成
形品の設計・開発、製造及び製造管理
2. ICソケット及びキャリアの設計・開発及び製造
管理

環境活動 — 自らに厳しく。それが環境配慮への信念です。—

エンプラスは、環境マネジメントシステムに関するグローバルスタンダードであるISO14001の認証を取得することはもちろんのこと、その規格に則って、環境マニュアルを作成し、比較的環境負荷の少ない地区においても「自己宣言」を行い、自らを厳しく律し、環境保全活動に取り組んでいます。

このような姿勢は、私たちの共有財産である環境の保全に対する意識を、より実質的かつ本質的に、企業として、個人として、高めようとするものでもあります。

さらに、積極的なエネルギーの節約と、環境に対する負荷の少ない製品の設計、製品の供給段階での負荷の減少、部材の効率的な活用、廃棄部材の削減など、製品の設計から製造におけるあらゆるプロセスにおいても環境へ配慮しています。

常に未来を見据えて技術の向上にもトータルに努めています。

環境方針

エンプラスは、エンジニアリングプラスチック及びその複合材による、高精度・高機能プラスチック精密機構部品・製品の開発、製造、販売に関わるあらゆる面で、地球環境の保全を企業の果たすべき重要な課題として捉え、その保護活動に積極的に取り組みます。

1. 環境目標を設定し、それを達成するために全社的な環境管理システムを構築し、継続的な改善向上を図ります。
2. 業務の合理化や改善等を通じ、環境負荷の低減・省エネルギー（電力使用量等削減/CO₂削減）を推進します。
3. 廃プラスチックの削減と再資源化を推進します。
4. サプライヤーとの協働により調達品の環境負荷低減に努めます。
5. 環境規制や環境協定等を順守します。
6. 企業活動から汚染を排出しないようその予防に努めます。
7. 社会の一員として、地域の環境保護や維持に貢献します。

ISO14001 認証取得
【登録組織】
株式会社エンプラス
鹿沼工場
【登録範囲】



エンジニアリング
プラスチック及び
その複合材による
プラスチック精密
機構部品・製品の
開発、製造

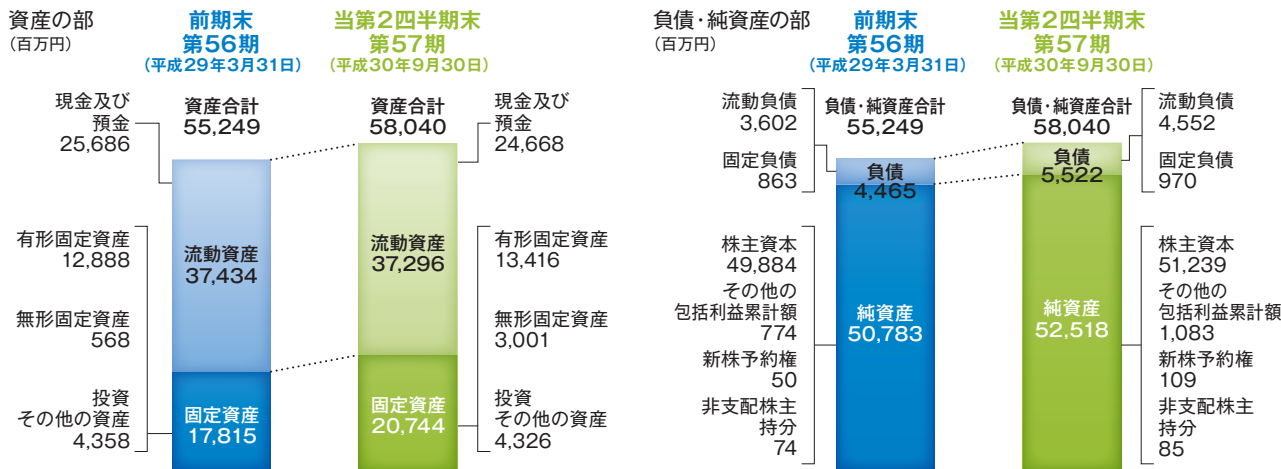
ISO 14001
REGISTERED

＜適用範囲＞

| 組織の単位・物理的境界 | 区分 | 適用範囲 |
|--|-------------------------|------|
| 工 株 式 会 社 エ ン プ ラ ス | グローバル本社 | 自己宣言 |
| | 本社 | 自己宣言 |
| | 鹿沼工場 | 審査登録 |
| 国 内 グ ル ー プ 会 社 | 浜松町事業所 | 自己宣言 |
| | 株式会社エンプラス 研究所 | 自己宣言 |
| | 株式会社エンプラス ディスプレイデバイス | 自己宣言 |
| | 株式会社エンプラス 半導体機器 | 自己宣言 |
| | QMS株式会社 | 自己宣言 |

連結財務の状況

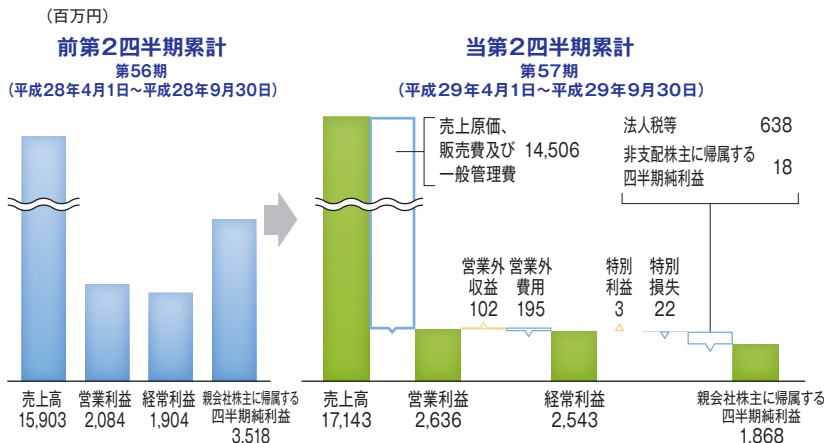
■連結貸借対照表の概要



総資産は58,040百万円となり、前連結会計年度末比2,791百万円の増加となりました。流動資産は137百万円減少しましたが、固定資産につきましては2,929百万円増加しました。主な変動要因は、有形固定資産で527百万円、無形固定資産で2,433百万円増加したことによるものです。

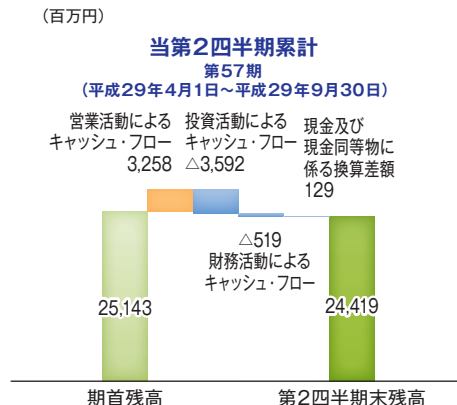
純資産は52,518百万円となり、前連結会計年度末比1,734百万円の増加となりました。その結果、自己資本比率は90.1%となり、前連結会計年度末比で1.6ポイント減少しております。

■連結損益計算書の概要



連結売上高は17,143百万円（前年同期比7.8%増）となり、連結営業利益は2,636百万円（前年同期比26.5%増）、連結経常利益は2,543百万円（前年同期比33.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,868百万円（前年同期比46.9%減）となりました。

■連結キャッシュ・フロー計算書の概要



当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は24,419百万円となり、前連結会計年度末比で724百万円減少しました。

会社概要 / 株式情報 / 株主メモ

(平成29年9月30日現在)

(平成29年9月30日現在)

会社概要

商号 株式会社エンプラス
所在地 埼玉県川口市並木2丁目30番1号
設立 1962年2月21日
資本金 80億8,045万円

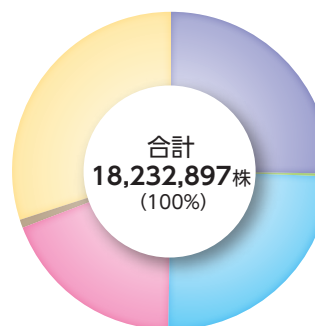
株式情報

発行可能株式総数 62,400,000株
発行済株式総数 18,232,897株
株主数 4,284名

取締役及び執行役員

| | |
|--------------|------------|
| 代表取締役兼社長執行役員 | 横田 大輔 |
| 取締役兼専務執行役員 | 酒井 崇 |
| 取締役(監査等委員) | ヨーン・ヨン・リオン |
| 取締役(監査等委員) | 風巻 成典 |
| 取締役(監査等委員) | 長谷川 一郎 |
| 常務経営執行役員 | 菊地 豊 |
| 経営執行役員 | 田宮 義男 |
| 経営執行役員 | 沓沢 茂雄 |
| 経営執行役員 | 高山 直亮 |
| 執行役員 | 星野 清孝 |
| 執行役員 | 宮坂 章司 |
| 執行役員 | 藤田 慈也 |

所有者別株式分布状況



個人その他
4,624,514株 (25.4%)
その他法人
76,608株 (0.4%)
外国法人等
4,486,806株 (24.6%)
金融機関
3,424,967株 (18.8%)
金融商品取引業者
183,919株 (1.0%)
自己株式
5,436,083株 (29.8%)

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 東京証券代行株式会社
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店で行っております。
郵便物送付先、連絡先 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
東京証券代行株式会社 事務センター(お問い合わせ先) ☎0120-49-7009
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
公告方法 電子公告(<http://www.enplas.com>)
ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。
貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET (<http://info.edinet-fsa.go.jp/>)にて開示しております。
上場金融商品取引所 東京証券取引所 市場第一部

グローバルネットワーク

■ 国内ネットワーク

グローバル本社

東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング9F

本社

埼玉県川口市並木2丁目30番1号



東京都

- ・グローバル本社
- ・株式会社シングルセルテクノロジー
- ・浜松町事業所

鹿沼工場

埼玉県川口市

- ・本社
- ・株式会社エンプラス ディスプレイ デバイス
- ・株式会社エンプラス研究所
- ・QMS株式会社
- ・株式会社エンプラス半導体機器

名古屋営業所

西日本営業所

九州営業所



本社
株式会社エンプラスディスプレイデバイス



鹿沼工場



株式会社エンプラス半導体機器



QMS株式会社



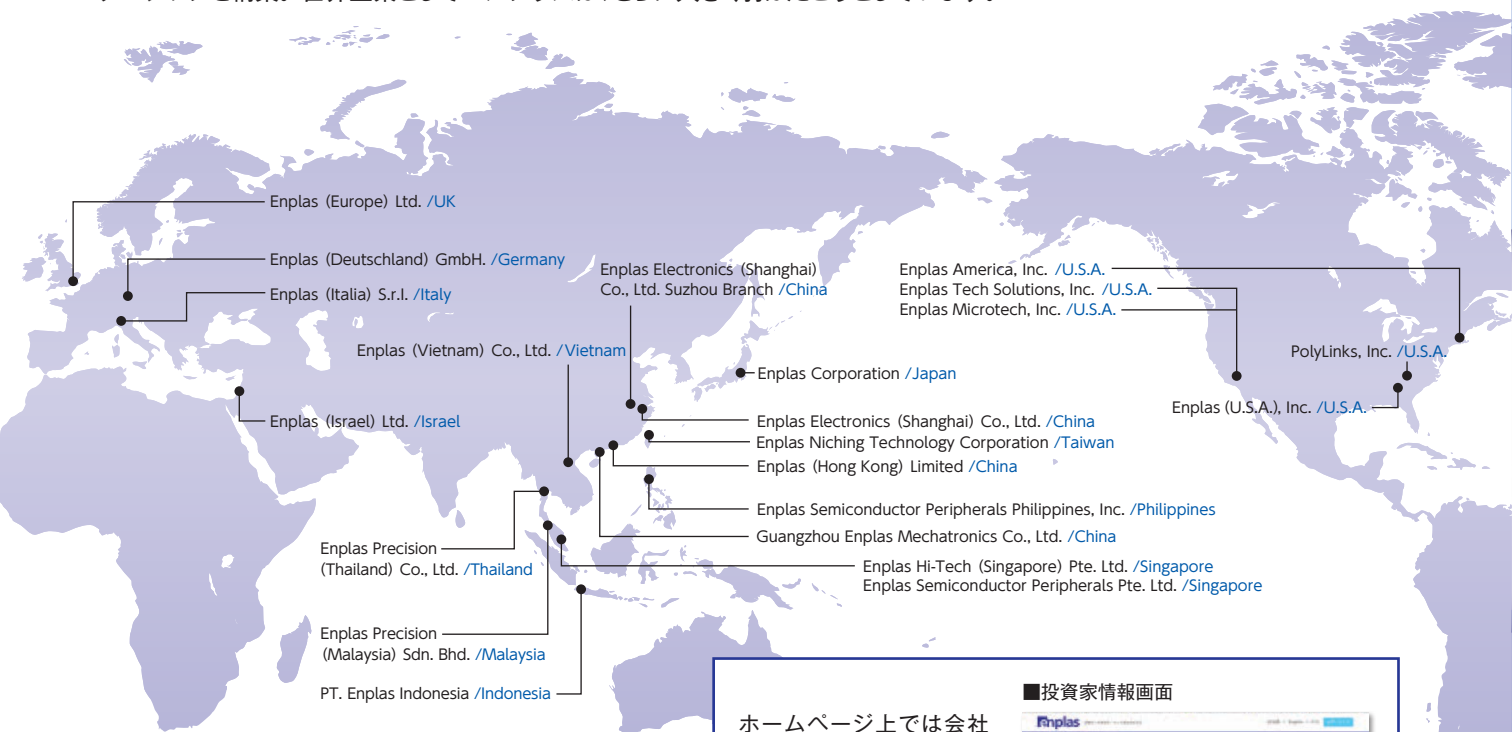
株式会社エンプラス研究所

グローバルネットワーク

■ 海外ネットワーク

技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



株式会社エンプラス

〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号

Tel : 048-253-3131 (代表) Fax : 048-255-1688

http://www.enplas.com

UD FONT

見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



■ 投資家情報画面

ホームページ上では会社概要、財務情報をはじめ業務内容やプレスリリースなど最新の情報を幅広くお知らせしています。ぜひご覧ください。

エンプラス IR

検索

